THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治二十年三月二十五日

定價金四錢

女學雜誌

第五十五號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

●（女學叢誌）矢田部良吉氏の女子敎育說に就て（前號の續）●（雜報）十數件●（學藝一斑）月の事●（手藝一斑）毛糸編もの●（列女傳）歌妓小万の傳（前號の續）●（論說）仕來の事●（雜記）東京高等女學校主幹箕作佳吉君が生徒一同へ送られたる手簡●（新作物語）海上の奇遇（前號の續）●（家政要報）更紗の洗濯法○橙皮を砂糖漬にする法●（御伽草子）不仕合○數學問題○考へもの～題○前々號數學問題の答○前々號考物の答●（寄書）我愛すべき學生姉妹よ（木内英介）○女學校敎科の問の答（前號の續）●（英語獨修）ニユーナシヨナルリードル直譯

女學叢誌

○矢田部良吉氏の女子敎育說に就て（前號の續き）

酒飮むことを嗜むものハ酒飮む事を嗜むものを友とし碁將戲雙六を嗜むものハ碁將戲双六を嗜むものを友とし詩文家と交り學者ハ學者と交り大工ハ大工と交り鍛冶工ハ鍛冶工と交りてこそ友誼も厚く交際も密なるべけれ下戸に醉醒の水の美きと語り碁石の並べ方をも知らず駒の道筋をも解せざる者と高尙なる詰手を語り婢女に對ひて詩文を評論し無學のものに對ひてインテグラルとのヂフレンシヤルとか七六かしき事いひたらんにハ如何でかその交際を全うし得らるべき尋常一般に友となし談敵となそものに於てすら尙は斯のごとかるに況て夫婦の交情に於て斯る不飽合あらんよハ一家の内何の樂しき事のあるべき俚諺にも牛ハ牛づれといひ毀れたる鍋に綴たる蓋といひ似たるものハ夫婦とぞいふなるに夫ハ高等の敎育を受けたるもろの婦たるものゝ敎育遙かに劣りたらんにハ何を以て一家團欒の娛樂とすべき然るを矢田部氏ハ其演說に於て「高等の敎育を受けたる男子は必ずしも己れと同樣なる高等の教育と受けたる女子を娶る事を好むものといふにもあらず家にありて家族と爐よ對し食卓を同うするなどの時ハ子供の敎育の事の美術上の事か慈善のことか夜會の事か乃至ハ演劇の事あどを互ひに話し合ふを以て一家團欒の娛樂となすものなり」といはれたれど余ハこれに反して高等の敎育を受けたる男子ハ高等の敎育ある女子を娶りてころ夫婦相互ひの間に於て眞正の娛樂ハあれと思ふなり氏ハ「學者といへども終日ろの研究する所の學理を說くを以て樂みとなさず或ハ家族とゝもに博覽會にゆきて陳列品の事よ就きて語る事もあり子供にナヤリチの曲馬と見物させて之を許する事もあるなり或ハ家族とゝもに上野向嶋等に花觀に出かける事もあるなれば家族と相樂しむ事柄ハおのづから特別のものなり」といはれたれど余ハ乃ちいはんとす家族を率ゐて博覽會に至り曲馬を觀て之を品評するも或ハ上野向嶋に花を觀るも夫妻とも

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

に均しく高等の教育を受けたるもの〻娯樂ハ一般普通のものの娯樂とハまた特別のものなるべし即ち眞正の娯樂あるものなるべしと扨て又氏ハ「或る人の或る女學校に於て演說したるに食物衣服家具等より交際の仕方に至るまで總て西洋風よ改むべし老爺老媼流の舊弊に従ふべからず開明の世に生れたる女子ハ一社を設けて其勢力を強くし勉めて舊慣を打破るべしと述べたるが我邦の女子ハ概して温和柔弱に過ぎたれば斯る急進說を聞せても左程大害ハあるまじけれど此人の說を老爺老媼の聞きたらんにハ嘸驚きて膽を潰す事なるべしそハ兎まれ今日この說を行ひたらんにハ不都合の事多かるべし」と述べられたり爰に或る人といはる〻ハその誰人なるや知るべからざれども或人の說こそ余の最も喜ぶところなれ左て氏ハ此說の今日に行れたらんにハ不都合多しとせらる〻ハ如何なる不都合にやあるらん氏の不都合とせらる〻所ハ乃ち「女子が西洋風の食物を調理せんとするも曾て不案内の事故容易よ手を下す事能はず西洋の家具を以て室内を装飾せんとするも是また不案内の事故急にハ整ふる事能ハず西洋服を拵へるにも切地ハ如何なるものを用ふべきか色合ハ何様のものよきか万事万端不案内なれば容易に裁縫に取か〻る事出來ざるべし良しや辛うして一領の衣服を仕立上るも色取なり仕立なり孰れも甚だ拙くして之を着たる姿ハ恰も萬歳の出來損見るが如き奇妙奇體のもハにハあらざるか」といふにあるがごとかれども斯る事ハ何の不都合かあるべき食物の調理法を知らざらば之を習ふべし室内の装飾法を知らざらば之を學ぶべし不案内なるが故に容易に手を下す事能はずとて爲さゞる時ハ何事をかよく爲し得らるべき譬へば人にも高等の教育を授くべきほどの學者とならんにハ横文字讀む事をさへ知らず之と學ばんにハ綴字も習ひ文法書も讀まざれば遂に高尚なる書物を解する事能ハず然るに綴字も文法も不案内なれば容易よ手を下す事能ハず急に整ふる事能はずとて止まんにハ何そて氏が如き學者の世に出づべき且つまた衣服の事につきても色取なり仕立なり甚ご拙くしてこれを着たる姿ハ恰も萬歳の出來損ひ見るが如しといはるれども如何にその姿の醜くかればとて頭に鍋蓋を戴き脊に文庫を負ひ身よハ風呂敷を纏ひたるがごとき粗なる仕立のものを着たると孰れかその姿の奇妙奇體なるや余ハ甚だろの辨別に苦しむなり總て氏の說ハ女子に高等の教育を授くるハ世に害あるものなるが故に男子の如く高等の教育を授くべからず之を授くるハ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

乃ち女子の天性に戻るなりといはるゝがごとかれども女子ハ稟性ながら男子と均しく高等の教育を受くる事も叶はずして男子に及ばざるものなりと定りたる所謂を示されざりしこそ憾みあれ余ハ此他に氏の演説につき尚はいふべき事質そべき事の多かれども貴重ある叢誌の餘白を汚す事既に數號に渉り讀者の嫌厭を招かん事と恐れ一先爰ヌ筆を止め他日を以て更に此餘論に及ばんと欲するなり

◎中外新報

○貴婦人貴顯の協議　伊藤、山縣、前田、戸田の各夫人方と始め十六七名の貴婦人及び高木海軍々醫總監、長崎式部官の諸氏ハ一昨夜鹿鳴館に集會ありて第三回慈善會の事及び踏舞會に改正と加ふる等の事につき協議せられたりと去る十六日の東京日々新聞に出たり

○語學に必要の語數　近頃ハ婦人にても外國語學の必要なる事を悟り英佛獨等の語學をなすもの日々に増殖そるハいと喜ばしき事の限りなりさて外國語と學び一寸會話の出來るまでに至るハ甚だ六のしきが如く思はるれども差向き入用の語數ハさまで多しを記憶するにも及ばず僅の三四千語を覺ゆれば事足るべきものにや近着の米國教育雜誌を見るに英語を使用する著作者の中にてシェーキスピーアほど多くの異りたる語を用ひしものハなかるべし或る統計家の説による時ハ最も多く語數を用ふる著作家にても一万語より多きハなけれどもシェーキスピーアハ一万五千の異りたる語を用ひたり中にハ九千語ばかりを使用する著作者もあれど著作家の大抵ハ八千語より上らず會話ヌ用ふる語數ハ僅か三千より五千に至るのみとありされば我々の外國語學となそに異りたる語の數凡ろ四五千と記憶なしたらんにハ大抵會話上に差支へなかるべしと思はる斯る少數を暗記するに何程の事のあるべき

○看護婦試驗問題　東京慈惠病院内の看護婦教育所にて生徒を志願そるものある時ハ次きの問題を出し直ちに口答せし此らるゝよし乃ち(第一)姓名及び住所(第二)未婚已婚或ハ寡婦なるや否(第三)現今の職業ハ如何(第四)年齡誕辰の月日及び生地(第五)身の丈け及び體の重さ(第六)從來何處にて修學せしや(第七)身体ハ强壯なるや且つ生來强壯なるや(第八)汝の視力及び聽官ハ完全なるや(第九)身体に不具の場所あるか(第十)呼吸器病に罹るの傾向なきや(第十一)寡婦ならバ小兒と有するや之あらば幾人なるや各々兒の年齡ハ如何而して各

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

兒の保育法は如何(第十二)本所に來るまでは何處に居りしや且つその日數は如何(第十三)その身上を熟知する二人の姓名住所及びその知己の月日長短を申し述ぶべし(第十四)本院の規則を熟讀し明瞭に了解し得るや(第十五)讀書(第十六)書取(第十七)作文(第十八)算術等にして以上の試驗に及第したるものはまづ二三月間見習となし病室に於て病者の看護を補助せしめ然るのち生徒たらしむる事に改正せられたるよし

○華族女學校　の生徒は去る廿日内藤新宿植物御苑の拜觀を許され同所に於て種々の遊戲の催ほしありし由に聞く

○婦人教育談話會　嘗て本誌に記したる同會は去る一月第一回談話會を開かれし後續々入會するものあり二月中第二回談話會を開かれまた近きうちに第三回の談話會を開かるゝ筈にて現に會員の數は七十餘名なりと聞くまた現任の幹事は木村貞子女史のよし

○米國來信　在米國の某氏より此程記者の許へ送られたる書中に次の文を載せたり(前略)兄も歐洲へ赴く時は當國を經て太西洋を航したる事なれば桑港を發してロッキー山を通過し同山を迂廻せる鉄道の有樣はよく御承知のことなるが近ごろ當地(チカゴ府)に於て專ら評判するを聞くに同山のグレーピークといふ所よりトンネルを穿つの企圖ありといへり此山の高さは一万四千四百尺なるが隧道は海面より一万尺高き所に開鑿しその長さは二万五千尺の積りにて之が爲め現今の里程よりは三百英里を短かむるなるべしと聞く扨て是迄は女學叢誌の種には不向の事のみなれどもその種にもと思ふ事を聊か申上べし全体米國にては女教員甚だ多きが中にも當府のごときは各小學校の教員は素より校長までも大抵婦人多くして教育家中にも時々婦人を教員となす事につき議論をなすものありと聞き居たりしが先日チカゴ教育會に於てこの問題を議し議論喧しかりしよし新聞紙にて其筆記を讀むに遂に男女優劣論に移り婦人はたゞ男子の妻となり家を治むれば足れり教員などになりて稼ぐには及ばずと主張するものありまた男子は機關の如く女子は機關士のごとしといふものあり種々議論の末ホーレー婦人といへるが男子は優り女子は劣るといふ論を駁し男子にして婦人に優りたる仕事をなすものは婦人に優りたる男子なりといふべくまた女子たりとて男子に優りたる仕事を爲すものは乃ち男子に優りたる女子といふべし何も喋々男女の優劣を論ずるにも及ばずと述たるは滿場の喝采を得しとあり總て米國は平等主義の國丈ありて婦人とても餘

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り男子と區別せぬ風に見受けしが得共時々斯る議論起るものと見えたり

(以下次號)

○將聖女學校　同校は創設の日尚ほ淺きにも拘はらず貴顯の令孃方の入學せらるゝもの多く目下外國女教師は一人なるがゆゑに何分にも手廻り兼るより不日に今一名英國婦人を聘すべしとの協議中ありと聞く

○丸川組商會　神田佐久間町なる同商會(洋服仕立及び服地の商店)にては英佛及び米國に於て時々の流行の有樣を通信せしめ且つ貴婦人方の需めに應じ外國への注文を請負はんが爲め來月早々社員三名を右三國に派出する筈なりといへば大に便利の事なるべし

○成立學舍　神田區駿河臺袋町の同學校にては今度女子部を設け英人ミッセス、パイヨー及び同ウラルフ外一名を雇ひ入れ來月上旬より開校の筈なり

○國家學會雜誌　は憲法、行政、財政、外交、經濟、政理、統計等國家學に屬せる論説等を掲載するものにて今度本郷弓町一丁目十番地哲學書院より其一號を發兌せり

○教育雜誌　北豐嶋郡金杉村賛育社より發兌する同誌は初號發兌以來第一周年を祝し大に改良を加へたり

◎學藝一斑

○年月の事(前號の續き)

〔月の事〕　一ヶ年を十二ヶ月に分つことは月の廻轉に基きたるに相違なしといへども是れ甚だ精密なるものにはあらず自然の月乃ち月の廻轉の日數は全く廿九日十二時四十四分三抄時なり一年とは即ち之を十二箇集めたるものなれば吾々のいふ一年よりは實は十一日餘り少き事なり

前にいひたるジユリオス、シーザーは三百六十五日の年三ヶ年續きたる次ぎの一ヶ年は三百六十六日たるべしと定めたるにより月の日數をも隔月に三十一日と三十日と定め平年には二月を以て廿九日となしたりしを後にオーゴストスは二月より尚ほ一日を減じて之を八月に加へたり故に七八兩月續いて三十一日の月とはなれり

斯く定まりたるのちは耶蘇教を奉ずる國々にては大抵これを用ひまたオーゴストスの定めたる月の名稱をも(ホーランドを除くの外は)そのまゝ用ふる事となれりホーランドにては古代のゴール人の言葉の殘りたるを用ひ居れりこれ昔しアングロサキソン人の用ひたるものなり

(以下次號)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎手藝一斑

○毛糸編もの　肩かけ編かた

爰に記す肩掛はセトルランド毛糸肩掛と唱ふるものにして先づ連鎖を編み(連鎖の目の數を二百あむべし)夫より次の如く編むなり(第一行)二ツ編み、二つを一所にあみ、一つあみ、糸を進め、二つと一緒にあみ、一つあみ、二つを一所にあみ、糸を進め、一つあみ、糸を進め、二列を一緒にあむ、一つあむ(第二行)は尋常の編方(第三行)二列一所にあみ、一つあみ、糸を進めて、三つあみ、糸を進めて、三つを一所にあみ、糸を進めて、三つあみ、糸を進めて、三つ一所にあみ、此行の終り二つをば尋常の編方にあむべし(第四行)尋常の編方(第五行)二つあみて、糸を進め、二つと一緒にあみ、一つあみ、二列を一所にあみて、糸を進め、一つあみ、糸を進め、二つ一所にあみ、一つあみて、二つを一緒にあみ、糸を進め、一つあむ(第六行)尋常の編方(第七行)三つあみ、糸を進め、三つ一緒にあみ、糸を進め、三つあみ、糸を進め、三つ一緒にあみ、糸を進め、此進めたる糸を此行の終りに持ち行き、二つあむべし(第八行)尋常の編方にあみ此八行の通りを直角となるまで編むべし(以下次號)

◎列女傳

○歌妓小万の傳(前號の續)

濱町の家なるは萬年何某とて同じ幕府の人の娘にて姿貌いとあてに麗はしう迎へとられしより四年許と聞けどまだ子もなければ若やかにてうち見れまことよりは四五歳も劣りて覺ゆれどもそかに萬に熟練ていとようのしつけど詞少なに引入れて何事もつゝましく沈愼がちかる本性なれば彼たをやかならむ一株の花の同じ園に移し植らるゝよしを仄聞きながらも深くは物を思はぬ体にもてつけつゝ見苦しからぬ一室をはらひあけさせて其准備すめり仕はるゝ下婢どもは一處にこぞりて互に耳に口さし寄せつゝ何やらむ耳語く主をしらぬ人の従者と世に有難きものゝ例に清原のおもとの記し賜ひしも道理にて最初は忍びやかなりしも漸限なき体にものいひ騒ぐと打聞けば一人は小指差出していと悔し斯くなり行も是の餘りに緩べがちに在すればぞかし多くの人の意をとりて口さきら利たる人なるべければ今より後如何なる事をいひ出して憂も辛も歎き賜ふとの出來まじきにもあらぬを此處を曹子に定めさせむとて塵なのこいそとて斯經營せさせらるゝは何事ぞや

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

去年のお煤拂に上﨟よりお納戸をうけばりて物せし時ハ寒もいと強う苦しとハ思ひしかど馴みがき榮えある心地のせられしか今日ハ箒取る手さへわなゝかるゝ樣にてなど一人が云へバ炭櫃を初め木の芽煎る具どもゝ皆好きとば撰りて此方にすゑよとハのたまひしかど如何に火打筥見たらむ樣の矮屋に住たりしとてさばかりの調度ハ持たらむに爪先の事より頂の上までも斯悉皆みこゝろ遣ひして其裝飾わかぬかたなくし賜ふハ假にもねたしと思ふ心見えじと深く包ませ賜ふ餘なゝめど内實にハ何とおぼすらむさはれ斯ばかり姿貌よりゝ心の麗ハしきを措て思ひ入賜ひつる人なれバ疾見まほしう思へるゝも亦一層にころといへば其よ其事ぞかし好き衣も帶もさぞ有るらむとハ思へどもとの裝ひとハ自から異りめの有れば是進らせ賜へと新しく調じて一襲とり揃へ進らせ賜へるを辭みもし賜ハず能くこそ心づきたれとて取て送らせ賜ひしを見し時ハいと畏けれと傍よりかい取て返し戻さまほしうころ思ひなりしの實うぢ無て乘る玉の輿とハ此事になむといふ折いつの間にか漏聞きけむ明障子のかなたに立てはや掃淨め果ぬるかよ**しなき玉の輿の論ひよりも此隔の板腰のいたう汚れたる拭**ハずやといふ聲に此方の者どもハ胸つぶれて應へもしあへず皆口を閉て急ぎかさ〳〵に別れゆくめり萬の調度どもゝすゑ果て漸暮れ初る比靜に車さし寄させて入來れバそよ參り賜ひぬといひ捨て皆外のかたに走り行くをやゝと呼留めつゝ來て歸るものあらばさるかたち人を見ず過さむも口惜のらめど今日よりハ妾と同列に召つかはるべき者がさるかしこまりあき所爲いするものか起居のあわつかに靜けからぬをさなせそとハ常よ云ふ事なるに忘れてや斯ふるまふらむ彼方にてハ然らでも萬に心おかれて物むづかしく思ふらむに初めよりはしたなめ煩ハす樣に扱るゝハ妾も如何ハ愧のしく苦しと思へざらむといとし冗やかにいハれて只さし俯くのゝ物もえいはず足疾く走り出しハ皆物陰にひろみて穴あくバかり見て有るふむに後たる我のみ斯むづかり賜ふと聞くころ心苦しけれなど思ひながらも猶うしろの方の氣遣しけに太わかなる尻そゑもやらず銀の湯沸しの下かい探り炭さし添へなどしつゝ木の芽煎るせうけす此方に侍るか許させ賜へといふ聲してやをら入來る物ごしのいとしとやかなる髮ハ漆もて塗れるかと思ふばのり光澤やかなるをさま形卑しからず結ひたて白きものも濃ハあらねど透明るばのり淸にて衣の着ざま帶のむすびぶりもはでやかならず目やすからむ体に繕ひたれど直に物馴たる裝の

えもいはず知らず愛たきにこゝろとられて實に聞きしには優りてあてにらうたくも在するかなと我にもあらでうち戍らるゝこゝろの裡にはゝやねたく氣憎かりしも餘波なくのき消たれて何處のひとゝころだに擬び得てしがなと先思ふさまあり主人公は公私につけて事しげく在すれば萬に甲斐なく行たられぬ妾のみにてはと此日ごろ思ひ渡りつるにさるべき契ありて此處に移られし嬉しさは譬へむかたなくなむなど隔意なきさまにあしらへば此方も思ひ懸ぬ深き惠みに濁り江の流れをいでゝ斯嬉しき瀬に浮びける身の幸は比もあらず殊に賜はりつる衣の色あひ仕ざまの愛たきとかゝるはえなきものゝ着汚さむはいと惜く侍りつれど故郷

百六十九

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

に歸る心地に立田姫の情も棄難くてなむなどいふめり元來はとのしてく用意ふかければ我は顏なるけなどは毫見えず右にも左にもあらぬ方なく心の誠と盡せば豫て主人公の似るものなく思ひまつはし賜へるも理りにて最初より斯る人と知るなふばよしなき物思ひもせざらましをと却て悔しうさへ思ひなれるも只管此人のひときも優れたる心ばえよこそ因るなるべけれ扨此時よりぞ名を阿蝶とはよばれにける　（未完）

前號この欄の百四十七丁八行目織の傍訓をりとあるはれり同じ行の降の傍訓にとりとあるもありり百四十八行上段六行目ゆき引れは別れ同丁下段十行朝飯はてふればはたして十八行はしたきはそしたなき

◎論說

○仕來の事

左に揭ぐるものは去る二日矢田部良吉君が東京高等女學校に於て生徒に對ひ演說せられたるなりとて今月の羅馬字雜誌に揭げたる筆記を字譯せしものなり

私は今日此席にて演說せよとのお賴をうけましたが私は生れつきの訥辯ではあり且は植物の講義なら毎日致して居る事故訥辨ながらも少しは出來ると信じて居りますが何か貴女方のお心得の一端となる事を申し述べませうとしますと頗る困却致しまする然のみならず先度より此席におきまして二三の先生方が貴女方のお心得になる事を演說せられたさうですから今又私が同じ樣な事、否中々同じ樣とは行きますまいが、似寄ッた事を申し述べましても俚諺にいふ蛇の足にて何の益にも立ますまい依て何か一ツ題を選んでお話としやうと思ひ附まして選みましたが能く考へて見ると此題でお話を致しても徹尾前に演說せられた先生方のお話に似寄ッた事が多く出さうです若し出ましたならば平に御容赦を願ひます私の選みました題は「仕來の事」でございます又習慣の事とか慣例の事とか申しても宜しうございます尤も此題を選みましたのは少しは譯が無いでもございません段々お解りになりませう決して長話は致さぬ積りですから暫時お耳を拜借いたしませう今私が泥を取りまして塊と致し之を貴女方の前に出しまして之は何でございませうと申さば聽衆は之はいはずとも知れた事泥の塊ですと仰しやるでございませう又私が此コップの周圍に泥を澤山よなすり附けてよく丸めて聽衆の前へ出しまして之は何でせうと申しましたならば聽衆は中にコッ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

プのある事を御存知でないから矢張泥の塊だと仰しやるでございませうして見れば聽衆ばかりでなく總て人といふものハ物の見懸に由て判斷する事が多いものでございます今私が穢い破れた衣物を着て或る立派な家に行き一面識なき其主人に面會を請ふとしてご覽なさい主人が取次のものに「如何なる風情のものが來たか」と申すでございませう取次のものハ有のまゝを申すでございませうが左樣すると主人ハ十に八九迄ハ何か事に假託て面會を謝絶でございませう何故なれば世の中にてハ破れた穢い衣物を着て居るものハ六でない事が通例でスから其樣ものに面會するを主人の嫌がるハ無理でない譯でございます之に反して私が美麗な衣物を着て面會を請ひますれば一面識なき主人でも或ハ遇ふて呉る事もありませう況てや私が役名だの位だのを書附た名刺を以て行きますれば前とハ雲泥の違ひにて主人ハ十に八九まではハ逢ふて呉るでありませう何故なれば世の中にて美麗な衣服を着て役もあり位もあるものハ通例無賴ものでハないからでス併しながら前に申しました泥で包んだガラスのコップも矢張ガラスのコップで包んだ泥の中にハコップがあるといふ事を慥に知ッて居る人ハ之を中まで泥だとハいひますまい又私が幾ら穢

い衣服を着て往きましても私の性質を知ッて居る人ハ眞逆に私を六でなしの無賴ものとハ思ふ事もなさゝうなものでス夫故に初めて見るものハ只の外觀に由て其性質を判斷する時ハ間違ふ事も往々ある事でハありますが一通りの人間の智惠にてハ篤と調べて見る迄ハ外觀に由て判斷するの外ハございません併しながら見懸乃ち外觀に由て判斷して間違ひのない事ハ隨分澤山あるもので譬ば三十顏をして居るものが二本坊を垂して居れば其馬鹿ものなる事疑ひハございませまいまた眼が碧く毛が赤く鼻が高く脊が高くして日本語とハ違ッた言葉と話して居るものを見れば西洋人として間違ひハありますまい長くて丸くて周廻に紙が張ッてあッて中が明るく夜ハ出て居ッて見えますが晝ハ引込んで見えないものハ丸行燈でせう足が四本で爪が四ッで尾が一本で顏が長くてヒン／＼鳴くものハ馬でせう白くて四角で軟かで鎮鍮の鉋丁で切られて居るものハ豆腐でせう嶋田に髮を結ッて白粉をつけて居るものハ女か役者でせう束髮で西洋人の餘りせぬ事の樣でスが花簪を挿て書物をもつて朝ハ往き午後ハ歸るものハ女學校の生徒でせう其外幾らでも見懸でよく解るものがあります斯樣に見懸で解るものが世の中に多くございますから人ハ

百七十一

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

見懸で物事を判斷する事が常となッて居ります町の商ひ店に看板を掛けおくも醫者が玄關と大くするも役人が馬車に乘るも學者が眼鏡をかけるも皆見懸でその賣るもの又ハ職業を人に知らせんが爲でございませう併し六かしき理窟と唱ふる人ハ何の見懸に構ふものか他の物事ハいざ知らず人間といふものハ見懸などに頓着してなるものかソロモンにも優る智慧があり孔子にも優る道德があるならば破れた穢い垢で染た樣な衣服を着ても構ふものか行儀作法ハ入るものか人の前で箕座をかかうが寢やうが心さへ正しけれバ行儀作法ハ如何でもよい社會の習はせ仕來などに構ッて何するものかと論ずることもなしとハいはれませんが是らハ私にハ受けとれぬ事ですまた聽衆にも勿論受取れぬ事でせうソコで世の中にハ仕來りとか習はしとか慣例とかいふ事が肝要になッて來るのでございます

（以下次號）

◎雜記

○東京高等女學校主幹箕作佳吉君が生徒の証人一同へ

送られたる手簡

拜啓、陳者近頃世上の男女交際の必要なる事と論ずる者多く隨つて歐米各國の風習に倣らひ夜會宴會等に漸々多數の女子をまじへ男子もまた女子を待遇するに鄭重をむねとするにいたりたるハ社會上女子の品位を高尙にするの一地步として喜ぶべきことゝ存じ候然るに各種の集會その數を增すに隨ひその會主たるものその幹事たるものその賓客たるもの男女交際の規約(conventions)を知らざるがために行儀上不相當の擧動をなすもの往々これあるやと存じ候抑も西洋各國に行はるゝ男女交際の規約ハ數百年來の經驗に由りてなりたるものにて社會の風儀を紊す等の事少しもなくして優美なる交際をなすにハ是れ〲の事必要なりとて誰いふとなく自然に定まりたるものなれバ今我が邦に於て男女の交際を廣むるに當りてハまたこの規約の大體を適用せざるべからざるの勢ひにこれあるべしと存じ候若し女子にしてこの規約を心得ず猥りに社會に徃來し世の惡評を來すことのあらんにハ實に不幸の最大なるものと存じ候本校生徒中斯のごとき不幸に遭遇するもの一人も之をなきやうに致し度きハ小生の常に切望するところなれば交際の心得等ハ既に本校に於て生徒に敎授するの計畫を盡し居り候然れども生徒の父母兄姉若くハその他監督者に於て勉めて深く此に注意し本校に協力せらるゝにあらざれ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ばその功少なきハ判然たる事と存じ候依て何卒次の事柄に御注意あらん事を偏に希望致し候

若し女生徒よて男女混交の集會及び其他一切の遊事に招待せらるゝ時ハ其大小よ拘むらず生徒の監督者に於て豫め其會の主客たるものが能く男女交際の規約と心得居りて之を守るものなるや否やを鑑定めふれ然る上にて參會の許なされ候樣致度候且つろの節ハ御両親の中か或ハ其他の然るべき人と御同伴なされ候樣いたし度候

本校生徒ハ大抵その年齢女子身體の發育に大切なる時期（十二三歳より十五六歳まで）に當り居るものなれバこの時期に於て勉めて身體の健康を計らざれば生涯の不幸を來すべしゆゑに本校に於ても殊にこの點に注意し課業時間を減し或ハ選習と許す等種々の手段を用ひ修學のために健康を害すること之れなきやう盡力いたし候得ども生徒屢々夜會等に參席し夜半過ぐるころまでも踏舞カルタ等を試みる事ありてハ學業を妨け健康を害する事少なからずと存じ候是れまた厚く御注意下されたく候外國にても從學年齢の女子ハ夜會等に參席せざるを通例といたし候儀に御座候この段得貴意度候也（羅馬字雜誌字譯）

◎新作物語

○海上の奇遇（第五回前號の續き）

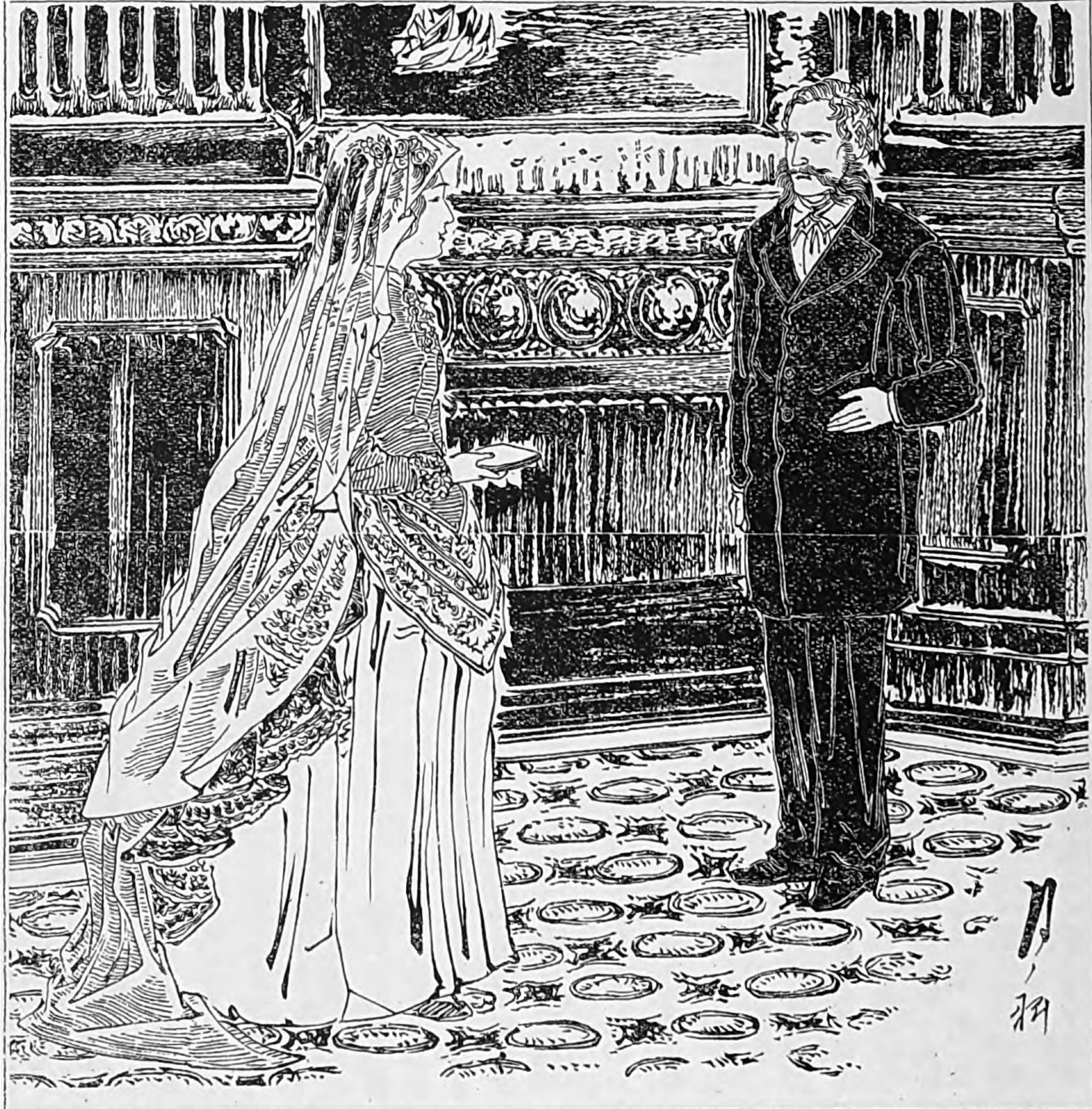
Ellison ハ是へと指されたる椅子引寄せて腰うち掛けやをら Pen 取て ink に浸しつゝまづ Personal Narrative of a Survivor from the Bucephalus（ブセファロス丸より助りたる者の實見自記）と表題をバ書き下しぬ初のほどハ新聞の投書なりとて之を書くに何程の事あるべきと思ひたりしが二行三行書き試ゑたるに左ハいと易からず思ハれつれど固より人の一生の中に再びとハ得あるまじき出來事の我身の上にありしと自ら書綴れるなれバ尋常の事書述るとハ事變りて谷川の早き流れの淀みなきが如く意を用ひざるも自然に Pen の働けるが如く在りし夜の光景の現ともなくて今目のあたりに現ハれ逆巻浪の中に不意く衝突の音して乘客の叫び惑へる悲しき聲の耳元に喧噪しかるが一齊に靜まり返り Lovell 婦人と彼の Clara と己れ三人が東天近き空うち眺めつゝ救け船の來れる事もやと神に祈り心に念じ萬死の中に一生を望める曉かた夫のあらぬか涙間遙に白帆の見ゆるにぞ既に死したるが生返りぬる心地せられ軈てに難破せる船の上より Clara を小脇に懐きて一飛に水

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

音高くとびたるを難なく助け上げられ扨てLovell婦人よいざ飛びねといふ間もあらせず彼のBoyd出來り婦人をば引戻して己れとびたると思ふうちに船ハ疾く婦人と共に沈みたるなど今尚ほ目にありと見え渡りて我身ハその中にある心地し書き初めてより既てに一時を過ぎまた半時バかりにもなりぬれど我を忘れてPen止むべくもあらぬ折しも耳元にて「最早出來上りましたか」との聲に驚かされ途見れば記者のCarnburyなりける Ellisonハ言葉もなくて一片づゝ草稿とりて渡しければ記者ハ一々讀み畢りて Ellison の手を取りながら「誠にどうもよく出來ました貴所の記録のまゝ直に印刷して號外附錄としませう而して明朝の新聞へもまた載せませう」といふ〳〵壁に裝置たる鐘鳴して僮僕を呼び「サア之を印刷方へ……大急ぎだヨ」と原稿をバ渡しけるにぞ Ellison ハこの狀を見てたゞ茫然たりしが Carnbury ハ再び我が椅子に腰うち掛ながら Ellison に對ひて「貴所ハ今書いて下さッたのが……あれが何ですか……始めてゞございますか「イヘ左樣でもございません田舍の新聞へハ時々歌だの論文だの又ハ慰み話などを書いて送ッた事がございました「ハア成程、併し新聞記者を職業にした事ハないのであります「イヘございません成りたいと思ひましたが如何も宜い場所もございませんので到底遠方へ出稼でもして見やうといふのでございまそ「矢張彼地へ出掛る積りですか「サア如何しやうかと思ッて居ります、何ぞよい事が此地にあれば行きたくハございません「留まッた方が宜しい、其位ゐに筆が取れるなら如何にでもなる、マアお待なさいよ恰ど當社でも今一人記者の見習が入るのだが若し入社て見る氣なら明朝お出なさいまづ初めハ一週間に五ポンド(凡そ廿五圓)の給料で雇ひませうが如何です」と思ひがけなき幸に飛び立バかり喜びて「夫れハ誠に有難うございます「併し最初ハ何でもしなくてハなりません探訪もすれば雜報も書かねばならぬ「何でも致します全体私ハ文學上の仕事が好でございますから「夫ハ何よりの事だ而して今日書いて下すッた原稿料をわけねバならぬお歸りがけに階下で出納に此切符を渡して金子を受取ッて下さい凡そ二段ばかりといひましたが二段半もありましたらうからマア五十圓わげておきます「五十圓でスとへ」と驚きたる面もちなるにCarnburyハいと落附て一左樣サ當社でハ成たけ報酬ハよくする積りでスから而して今日の事ハ他の新聞へ出ない前でもあるしまた難船の事ハ世間でも委しく知りたがる事でスから、左樣ならま

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

た明日……「左様なら、實に今日は有難うございました「如何して却てこちらでこそ有難うございました、左様なら」とEllisonは別れを告げて階下に到り出納方より金受取て街上のかたにぞ出行きける〔是よりEllisonは宿に殘せし乙女にもこの事聞せて喜ばせなんとて急ぎ歸りて見れば這は如何に留守の間に乙女の親戚なりといひて夫婦連れにて來りたるが乙女を伴ひ出たるまゝ行衛しれずなりしにぞEllisonは大に驚き彼のPeters婦人の許より迎へ取りたるにやと急ぎ行きたるに婦人は二時ばかり前に頓死したりと聞え乙女の行衛を探るべき便宜もあらざれば心ならずも遂に新聞社にぞ勤めける是より乙女の身の上につき種々の話あり



百七十五

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

て七年を過ぎて乙女ハ Ellison に廻り逢ひ遂に夫婦となれる奇談にて此先きいと長ければ讀者の讀み飽き賜はん事を恐れ且つハ倘來園主人此頃眼病と患ひ醫師より筆硯に對ふ事を禁じられたれば一まづ爰にて筆を止め時機を得てまたこゝの續きを綴り愛讀を乞はんとハ思ふなり此插畫ハ乃ち本誌よ譯したるより七年の後 Clara ハ十八ばかりのころ Ellison と婚姻なせる狀と出しゝるなり

◎家政要報

○更紗の洗濯法　更紗を洗濯するにハまづ白米五六合を五升ばかりの水にてよく煮たるのち之を洗濯盆に入れて少し冷し(餘り放冷し過ぎて微温となりてハよろしからず)之に更紗を漬け飯粒を其儘石鹼の代りに用ひてよく洗ふべし扨てまた前のごとく米と煮てその飯粒と取り去り(其湯を捨べからず)白湯を交へて再びよく更紗を洗濯したるのち前の米を去りたる跡の湯を以て幾度も振り洗ひをなしその儘板に張りて乾かす時ハ別に糊を要さず總て更紗を洗濯するにハ石鹼を用ふ事あるべからず(家政全書)

○橙皮を砂糖漬にする法　橙の皮を水に浸しおき皮の苦味を去る爲に度々その水を取換べし別に舍利別を(砂糖を水にて煎つめたるもの)拵へおき右の橙皮を此舍利別に浸しおく時ハ日數と經て透明る位ゐになるものなり斯くなりたる時取出して乾かすべし恰も氷掛のごとくなるべし(同上)

○白米小賣相場　一圓につき(一等)一斗三升六合(二等)一斗四升三合(三等)一斗四升八合(四等)一斗五升七合(五等)一斗六升三合なり

◎御伽草

○不仕合　散遊亭圓蝶述

世の中よ不仕合と申しますするものが居りますが常に此不仕合に取附れない覺悟をして居なければなりません爲一此ものに取附れたらんにハ最早離れッこハございません或る時或る處に貧しく暮して居る人がございました薪と買ふ代もないといふ始末でございますから山へ薪を拾ひに參りましたが皆大きな立樹ばかりで薪に致すやうな木がございません段々奥深く參りますと手ごろの枯木がございましたからヤレ嬉しやまづ此枯木を取ッて薪にせんと立寄る途端に向ふのら狼が二疋齒をむぎ眼を怒らしてヤッて參りますから之ハ溜らんと矢庭に驅て逃げ出しましたが狼ハ益々跡を逐ふて參ります此方

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ハ一生懸命に駈て參りますと大な河がございまして古い危險さうな橋が掛つて居りますから之を渡らんとする時橋が落て仕舞ました跡よりハ狼が逐へて來る前にハ河がある進退究まりましたが狼に喰れるよりハと思つて河の中へ飛び込みました此人ハ游泳ハ知らない人で浮つ沈みつ溺れて仕舞ましたが向ふ岸に居ります漁人が此有樣を見て舟を漕いで來て救ひ上げ小屋の中へ入れて段々懷抱して溺死人が蘇生りますや否小屋が崩れて到底また死ました此人ハ乃ち不仕合に取附れて居ましたのでございます何でも不仕合に取附れると六ヶ事ハございません之を避る法ハたゞ勉强でございます

○數學問題

$\frac{2}{3}$, $\frac{3}{5}$, $\frac{5}{7}$, の三分數を大小の順に列記する事を求む

○考へもの〻題

左の歌ハ歷史中の婦人にて誰を詠せしや

世におはふ露をあまして小夜衣二たび妻をかさねつるかな

○前々號數學問題の答式

$12^2=144$坪　$18^2=324$坪　答八百十圓(答者)東京竹內哲夫

$144:324=360:x$　$x=810$圓

中村かね子、淡路仁井万平、仙臺岩淵さん、臼井ふさ、攝津伊丹木谷美子(追加)五十二號の答者、筑前廣田とめ、淡路仁井万平

○前々號考物の答

小野小町(答者)伊豫宇摩郡川之江星川とみ子

◎寄書

○我が愛すべき學生姉妹よ　木內英介

我愛すべき學生姉妹ハ女性まして余ハ男子の賦生を稟く素これ天の配剤にして人力の作用にあらず一視同仁ハ天意なりとゐや然らば則男女の別あればとて利害得失固より存すべからず幸不幸また何ぞこれあらん女たり男たり同く是れ社會の元素にして片廢すべからざる事車の兩輪より甚しき者あり若しそれ兩輪の大小勢力に差違ある時ハ其進步蹣跚たらん其運動遲々たらん然れどもこれ尙ほ忍ぶべし何となれば人力を待て其目的を達する難からざればなり社會の兩輪即ち男女にして其權利に差等と生し尊卑の區別あるが如くんば社會前途の最大幸福ハ到底望むべからず何となれば其進步の遲々蹣跚たるのみならず補助の待つべき者なければなり我愛すべき學生姉妹よ姉妹ハ一日も吾々男生を忘るべからず吾々男生ハ一日も姉妹に依らざるべからず況やまた姉妹と余輩とハ前途尙ほ遠く等く學窓にありて前途の策をなすものなり前途の社會ハ吾吾の社會なり前途の進步ハ實に吾々の任なり學生姉妹よ余輩ハ姉妹を愛敬して已ざる者あり姉妹に力を協へて以て社會の進步を計らんと欲する者なり今や有限の先輩識者が或ハ女子の敎育に或ハ女權の擴張に汲々として事に此に從ふ者我邦古來の陋習を拂拭し文明の根底を確ならしむる者にして獨り姉妹の幸のみならず吾々男生の幸をも計り進で社會の福幸を求むるの手段なり我姉妹の權力ハ之よりして暢び我姉妹卑屈の俗ハ是よりして脫せん嗚呼我姉妹の愁眉ハ將に是より開かん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

何をか我邦古來の陋習といひまた何が爲に我邦の婦人ハ愁眉を開く能はざりし乎凡そ東洋の慣として昔より男子ハ明智寛剛などいへる名稱を專有し婦人ハ之に反して暗愚狹柔の文字と配布せらる婦人ハ果して暗愚なりしか爲に不幸にも憂苦に遭遇せる事の多きか抑もまた狹柔の性として念慮を過し愁眉これが爲に開けざりし歟否々天性に於て決て然る者よあらず其暗愚と稱し狹柔と唱ふるものハ之を要するに皆東洋の固有せる男尊女卑の俗これをして然らしめしのみ其憂苦愁眉の男子より多き分ハ即ち男子ハ爲し得るも女子はなし能はさる分のみ其欲する所も之となす能はずいふ所も行はれずんば之を愁ふるも亦宜なり況や鬱々として一室の内に蟄居するさへ世間尙は囂々として其擧動を責めんとす夫れ淑德婦人の道ハ別にあるなり然るを些々たる末事とも之を責め其爲すべきをなさしめず且又漫に抑て暗愚狹柔と稱せんとす亦冤ならずや」

請ふ試に男童女兒が遊戲の有樣を見よ童男却て兒女よりも愚なるあり女兒反て童男に優るあり未だ男女の別を以て其優劣を判すべからず然らば則ち天地に於て明暗智愚の差なきハ明白なる事よてまた爭ふべくもあらざるなりさりながら其人となるに至てハ女子多くハ男子に及ふ事能はずこれ誠に怪むべきに似て蓋しまた怪むに足らず何となれば性質の自然に出たるものにあらずして男子教育の懸隔に基くものなればなり其教育の懸隔を生ずるものハ所謂男尊女卑の陋習之をして然らしめしのみ請ふまた維新以前の有樣と見よ娶るものハ權利者かまたハ主人の如くなれども嫁するものハ義務者の如く奴婢の屋敷奉公をなすにサモ似たり之を要するに婦ハ夫を輔くる者にあらずして夫に從ふものなりされバ萬一婦人に智識上の教育を授くるあれば近隣怪訝彈指するに至る是を以て男子のみハ(不十分ながら)幾何か智識上の教育を受けしも女子ハただ朝夕薪炊の事と洒掃應對の道とのみこれ學び糸竹裁縫の藝に達すれバ以て上等の婦人となす教育の異なる既に此の如し之と花木に譬ふるに一ハ其培養宜きを得たるにあらざれどもまづ半開の候を得一ハ培養をなさゞりしのみかたゞ其枝葉の形容を作りて其精分を勞せしむ且つ幸に蕾を生ずるあれば忽ち暴風暴雨の害に逢ふ然るをその香を嗅んで甲乙差ありといふまた愚なる事にハあらずや

維新革命以來歐風日に吹入るに從ひ女子の教育漸く盛よその地位漸く進みしも未だ以て吾人が充分滿足の點に達する能ハず其これが說となすものハ或ハ教育の男子に比して尙ほ劣る所あるを憾ミ或ハ財產の分配女子に及ばざるを咎むこの二說ハ今日我姉妹に關するの難題にして我姉妹もまた朝夕忘るゝ事能ハざるべしと信ずるなり

夫れ望蜀の情ハ人の常なり是を以て名譽を得れば毀損を憂ひ利益と博せば保存と計り人生の苦勞ハ誠に際限なきものなり而て其間眞正の快樂ともいふべきハ獨り天賦男女の情誼にして其憾をも之を解き其憂をも之を慰むるに足るされば男女の間ハ好しや賓主の如くならざるにもせよ常に相愛し相敬すべきに豈に計らんや夫妻の間と見るに主と從との如く然り之れ即ち夫妻財產の有無に關する少からず遂に權力に差進を生じたるものとやいふべし我邦婦人の嫁するや一にも之を夫に求めて用を辨じ二にもまた之を夫に仰て事と理す其勢妻ハ夫の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

意をこれ求めざるを得ず夫ハ驕り妻ハ媚ぶ尊卑の因て生ずる所以なり

然と雖もこれ尚ほ忍ぶべし蓋し教育にして行屆きなば教育ハ無形の財產を與ふるものなればなり智識高尙にして夫を輔くるに足らバ夫の驕傲を制する難からず況やまた男子同等の見識を有し父母の信用と得る時ハ財產の分配を求むる素より易し教育の不平均に至てハ一日も忍ぶべからず教育の不平均ハ天爵に不平均を生ずるあり男女の尊卑擧げて此に基くものといふべし特よ妻ハ夫を輔くるものにして已に之を輔くるに足らざれバ尊卑の起るハ怪むに足らざるなり

我愛すべき學生姉妹よ姉妹ハ今や教育の下にあり姉妹にして勉めざれバ尊卑の陋習を脫すべからず陋習已むなくんば文明の前途ハ望むべからず嗚呼我愛すべき學生姉妹よ姉妹ハ我邦の文明を左右するものなり我邦の幸福ハ姉妹に於て進退せるものなり(以下次號)

○女學校教科の問の荅(前號の續き)

○生徒罰則㊀校內の戶障子及び器物等毀損するものあらば事情に依り修繕費の全額又ハ其幾分を償納せしむべし㊁校則ハ勿論幹事及び教員の指揮に從はさるものハ退校を命ずべし㊂怠惰遊蕩にして進步の見込なきものハ退校を命ずべし㊃諸規則ハ假令誤て犯そと雖も相當の罰を與ふるものとす若し故意又ハ再三違犯したるものハ退校を命ず○入學生徒學力、小學初等科卒業のものハ豫科へ小學中等科卒業のものハ本科へ入學せしむ○入學生徒の年齡、滿十年以上のものに限る但し小學初等科卒業のものハ此限にあらず○生徒定員、通學生百名寄宿生百五十名合計二百五十名を定員とそ(完)

◎英語獨修

○ニユー、ナショナル、リードル直譯

〔第七節〕㊀（　）ト㊁而て㊂（　）ナ㊃見ロ●㊀（　）ハ㊁（　）コ㊂於て㊃走りシ●㊀（　）ハ㊁（　）チ㊂得㊃能ふ（の）●㊀（　）ハ㊁（　）コ㊂於て㊃ある●㊀（　）ハ㊁（　）コ㊂於て㊃ある

〔第八節〕㊀是ハ㊁小兒ト㊂而て㊃彼れの㊄犬デ㊅ある●㊀小兒ト㊁而て㊂彼れの㊃犬ハ㊄速に㊅走り㊆能ふ（か）●㊀然り●㊀走る㊁彼等ヲ㊂見ロ●㊀子兒ハ㊁犬ノ㊂㊂如く㊃速よ㊄走り㊅能ハ㊆莫

NEW NATIONAL FIRST READER.

LESSON VII.

See the (子供) and the (犬)
㊃ ㊀ ㊁ ㊂

The (犬) ran at the (猫)
㊀ ㊃ ㊂ ㊁

The (牝鷄) ran at the (猫)
㊀ ㊃ ㊂ ㊁

Can the (猫) get the (鼠)
㊃ ㊀ ㊂ ㊁

The (卵) is in the (巢)
㊀ ㊃ ㊂ ㊁

The (巢) is in the (箱)
㊀ ㊃ ㊂ ㊁

LESSON VIII.

This is a boy and his dog.
㊀ ㊅ ㊁ ㊂ ㊃ ㊄

Can the boy and his dog run fast? Yes. See them run
㊆ ㊀ ㊁ ㊂ ㊃ ㊅ ㊄ ㊀ ㊂ ㊁ ㊀

The boy can not run as fast as the dog.
㊀ ㊅ ㊆ ㊄ ㊂ ㊃ ㊂ ㊁

Run, boy, run!
㊀ ㊁ ㊂

百七十九

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○文部省御檢定濟○小學教科用書

●小學國民讀本 自壹至六 七八卷 近刻

山中英二郎編 全六冊 定價金四拾四錢五厘

東京日本橋區馬喰町二町目 石川教育書房

千葉縣千葉本町壹丁目 石川代理店

福嶋縣福嶋南裏壹町目 石川支店

教育書專賣所廣告

英國バーゲン大學論理學博士アレキサンダーベイン氏著

松嶋剛 田中登作 佐藤龜世 橋本武合譯

●心理全書 定價一冊七十五錢宛 四冊

高等師範學校教頭高嶺秀夫君序 山縣悌三郎閲

蘇格蘭グラスゴチ師範學校長ゼームスライチユ著

●七大教育家列傳 定價一冊五十錢 全

田中登作閲 普及舍編述

●教育心理論理術語詳解 定價六十錢 全

大學教授寺尾壽序 音樂取調掛助教鳥居忱譯

●哲學一斑 定價一冊三十五錢 二冊以下近刻

文學士井上圓了著

●倫理通論 定價一冊七十錢

發兌 東京下谷區練塀町十四番地 普及舍

文部省御檢定濟小學教科用書

○一品熾仁親王有栖川宮題字○從三位勳二等伯爵柳原前光公序文○從六位帝國大學教授小中村清矩先生序文○從七位海軍教官永峰秀樹先生序文○水戶栗田寬先生校閲幷序文○栗田勤先生編

新刻日本史略 訂正再版 全三冊

此書上神武天皇ニ起リ下今上天皇御宇ニ終ル著者此書ヲ著ハスノ要旨先ツ國體ノ據テ以テ立ツ所ヲ詳カニシ氣運ノ因テ以テ變遷スル所ヲ明カニスルニ在リ是以テ上下貳千五百年間ノ列聖ノ承統政權ノ變移ハ申ニ及ハス苟モ國體氣運ニ關スル大事大故採テ以テ之ヲ具載セサルハ無シ而シテ其體裁ハ簡明ヲ要トシ其文章ハ平易ヲ旨トス最モ史略ノ體ヲ得タル者ナリ故ニ近來國史ノ略世ニ行ハルモノ多シト雖モ方今學校ノ科業ニ適シ幼學ニ益スルモノ恐クハ此書ノ右ニ出ルモノ莫カルヘシ殊ニ今般文部省ニ於テ御檢定之上小學校教科用書ニ適當ナルコトヲ認定セラレタリ世ノ教育家諸君請フ全國各府縣書林ニ於テ御購求ノ上公私學校教科書ニ御採用アランコトヲ

教育書舖 山梨縣甲府常盤町四番地 內藤傳右衛門

內藤支店 東京神田區豐嶋町十五番地 山添榮助

本誌代價表

壹冊	正價金四錢	此郵税壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同四拾錢

但シ東京十五區內郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ郵誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必す代價郵税共郵便爲替又ハ劵運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手ニて一割增し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替劵本舍へ御送附可被下候 但し東京十五區內ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 積文舍

持主兼印刷人 松本義弘

編輯人 初鹿野錦五郎

大賣捌 東京芝之區愛宕町一丁目三番地 修正堂

同 神田區淡路町 同 巖々堂

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY